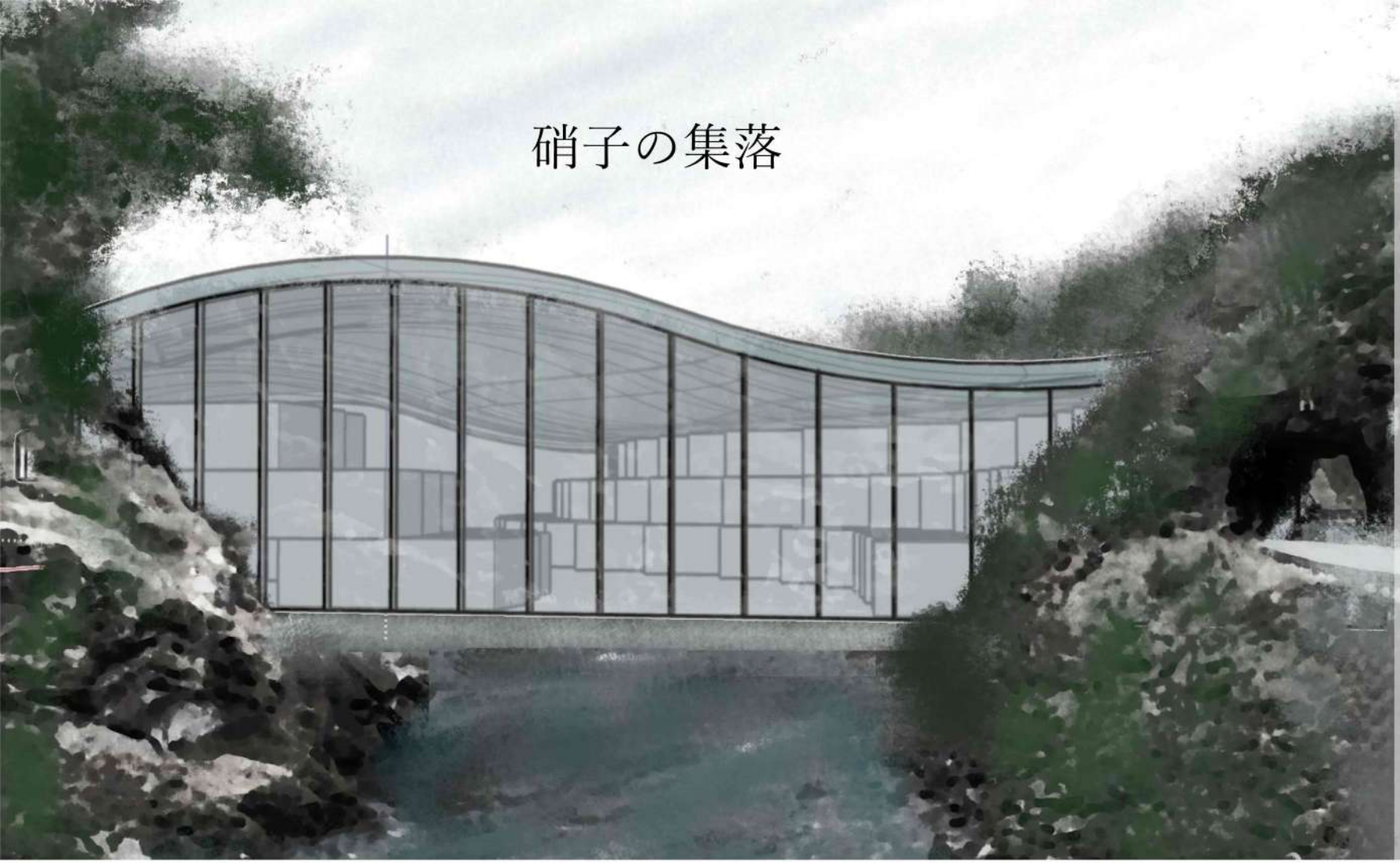
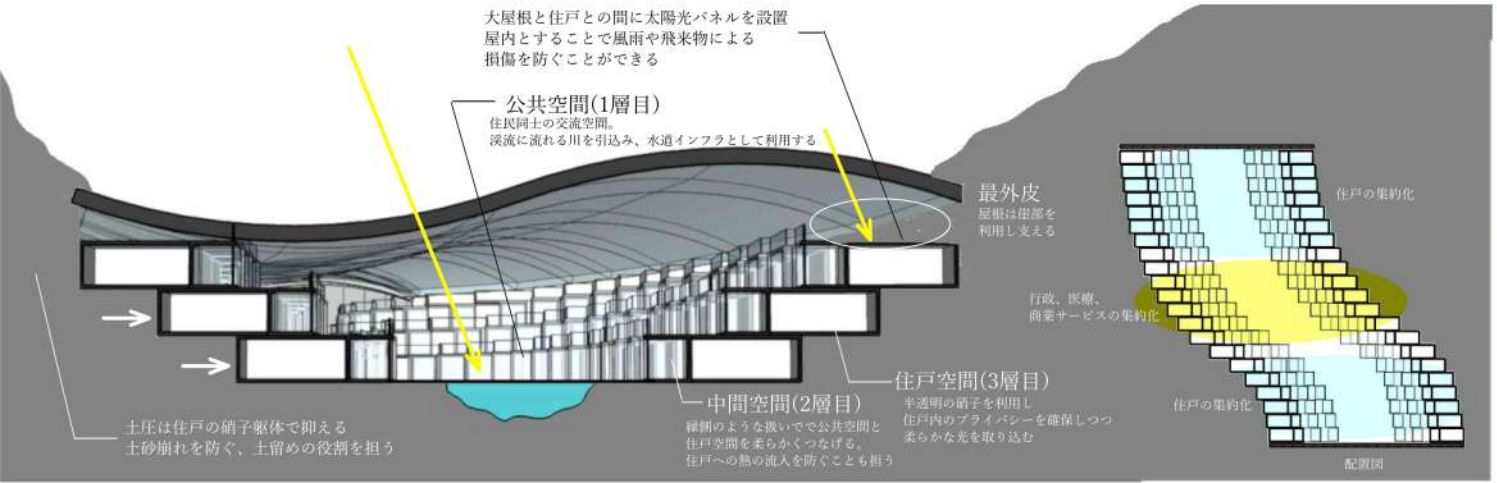
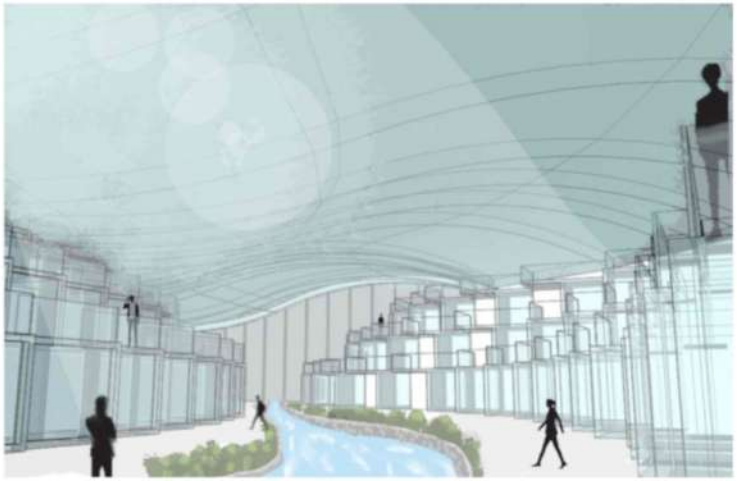
硝子の集落



1970年以降、地方で進み続ける過疎化。
少子高齢化のあおりを受け、高齢者の孤立や
人手不足・税収低下による商業、行政、
医療サービス等の不足深刻化など
過疎化による影響は計り知れないほど
大きな問題となっている。

これらの問題に対応すべく、
硝子の持つ特性や特徴を生かし、
問題の解決に歩みを進めることが
できる可能性を模索した。

日本の山地は国土の70%以上を占め、
河川は2000地点以上に存在する
過疎地域の多くはそんな山地や
河川近辺に存在し、
地形の悪さから一軒一軒が遠く離れ、
人同士のつながりやインフラ、行政、
医療などの社会とのつながりも希薄となり
孤立化の一因となっているかと思われる。

そこで提案したいのが、
散らばった一軒一軒を一か所に集約し
共同住宅の形をとったものに
さらに包むように硝子の構造体で囲った、
「硝子の集落」である。
トリプル硝子のサッシのように、
住戸空間から外部までを硝子の層を設けることで
最外皮の硝子で、雨・風を防ぎ、
中間層の硝子で熱の調整を行い、
最奥部の住戸硝子で
光を適度に運ぶ心地よい空間を作り出している。
人同士のコミュニケーションも
1層目で住民同士や外部から来る者、各種サービス
に触れ、2層目で縁側のように、
来客や住民同士の会話の場の受け皿として利用、
3層目は完全なプライベートの空間として利用する。
空間にグラデーションを付けることで閉鎖過ぎない、
開放しすぎない集落を演出している。

全面硝子の最外皮で建物ごと囲うことにより、
閉ざされた集落ではなく外部にオープン、
だが1つの共同空間となる、
まとまりのある集落を創造した。